



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 96) uniwish23号 (2017年2月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



シリア危機

いまだに子ども200万人が支援困難 紛争と喪失しか知らずに生きる子どもたち ユニセフら国連5機関共同声明

【2017年1月16日 ダボス（スイス）発】

ユニセフ(国連児童基金)事務局長アンソニー・レーク、世界食糧計画(WFP)事務局長アーサリン・カズン、国連人道問題担当事務次長スティーブン・オブライエン、世界保健機関WHO)事務局長マーガレット・チャン、国連難民高等弁務官 (UNHCR) フィリッポ・グランディは、本日共同で、シリアでいまだ人道支援が絶たれている人々へのアクセスを求める声明を発表しました。



○ UNICEF/UN047417/A1- Asadi
ユニセフがトラックで水を運搬しているダマスカス（シリア）の学校に通う子どもたち。（2017年1月4日撮影）

ユニセフら国連5機関共同声明

シリアでは、停戦の全面的な実施のための努力が注がれているものの、シリア全土でいまだ人道支援が遮断されている子どもたちや家族に対して支援が届けられるよう、私たちは再度、早急かつ無条件の、安全な移動の確保を求めます。

現在シリアには、包囲された地域が15カ所あり、30万人と推定される子どもたちを含む70万人近くの人々がいまだに閉じ込められています。また、子ども200万人以上を含む500万人近くの人々が、戦闘や治安の悪化、アクセスの制限のために人道支援が届けることが著しく困難な場所に暮らしています。

シリア全土で、人々は生きるために必要な最も基本的な物資やサービスを得ることができず、また暴力の被害を受ける危険と隣り合わせの生活を強いられ続けています。私たち、そして世界は、紛争当事者たちが「紛争の武器」として食糧、水、医薬品などの支援の提供を拒否する行為に対して沈黙してはならないのです。

子どもたちが栄養不良、脱水症状、下痢性疾患、感染症、また怪我に苦しむ危険が高まっています。多くの子どもたちは、衝撃的な出来事、暴力や人権侵害などを目の当たりにし、心のケアの支援を必要としています。悲劇的なのは、あまりに多くの子どもたちが彼らのまだ短い人生の中で紛争と喪失しか知らずに生きてきていることです。

アレッポ東部の包囲がもたらす恐怖は、世界の人々の意識から消え去りました。しかし、私たちは、シリアの人々が必要としているもの、彼らの命と将来について、世界の良心が忘れないようにしなければなりません。

私たちは、2016年にシリアを襲った悲劇を、2017年に繰り返させてはならないのです。



○ UNICEF/UN048837/Ergen
トルコ・ガジアンテップの難民キャンプで三輪車の競争をする男の子たち。
(2017年1月16日撮影)

シリア危機／トルコ

難民の子ども4割、38万人が学校に通えず 中東全域では270万人が未就学 「失われた世代」にさせない努力必要

【2017年1月19日 ニューヨーク／ガジアンテップ（トルコ）発】

トルコ全土の学校には、50万人以上のシリア難民の子どもが就学しています。しかし、昨年6月から就学した児童の数は50%以上増加したにもかかわらず、いまだに学齢期の難民の子ども40%以上の38万人が、教育を受けていない、とユニセフ(国連児童基金)は本日発表しました。

ユニセフ事務局次長、トルコを視察

ユニセフ事務局次長ジャスティン・フォーサイスは、トルコ南部のユニセフのプログラムを視察した後「シリア危機が発生してから初めて、トルコに暮らすシリア難民の子どもで学校に通う子どもの数が通えない子どもの数を上回りました」と述べました。

「トルコが達成したこの大きな成果は評価されるべきです。しかし、さらなる支援がなければ、シリアの子どもたちはいつか彼らの国家を再建するために必要となるスキルを習得することができず、『失われた世代』になる現実的な危険性が非常に高いままです」

トルコは120万人以上の難民の子どもたちが暮らす、世界で最も多くの難民の子どもを受け入れている国です。ユニセフは、トルコ政府と協力して、教育制度の強化、学習機会の増加、シリア人および弱い立場にいるトルコ人の子どもたちを受け入れるインクルーシブ教育の質の改善に取り組んでいます。

「失われた世代」にさせないために

2013年以降、ユニセフは、400近くの学校への建設や修復、備品や家具の提供を支援し、約2万人のシリア人のボランティア教員に対して研修を実施しました。約1万3,000人の教員が月々の手当てを受け取っています。

厳しい状況にある家族に対して、彼らの子どもたちが学校に行き、勉強を続けられるように現金を支給するトルコの国家施策に、シリアの子どもたちを含めるための努力が行われています。

中東地域全体では、270万人のシリア人の子どもたちが学校に通っていません。その多くは、紛争によって荒廃したシリア国内で暮らしています。そこでは、いまだに何百万人もの子どもたちが、危険と隣り合わせで生きています。シリア全土にある15カ所の包囲地域では、約30万人の子どもたちが取り残され、さらに約200万人が、戦闘や移動制限の中で、基本的な人道支援からほぼ切り離された環境の下に暮らしています。この数字にはIS（イスラム国）が支配する地域に暮らす70万人の子どもたちを含みます。



◎ UNICEF/UN048832/Ergen
トルコ・ガジアンテップの難民キャンプにある教室の窓から手を振る女の子たち。
(2017年1月16日撮影)



◎UNICEF/Syria/2016/A1-Issa
アレッポ東部にユニセフが設置した給水所に行き、水をポリタンクに入れる男の子。ユニセフは毎日トラックで給水所に水を運搬している。

アレッポ東部から避難した子どもたち ユニセフ、命を守る支援を届ける

【2016年12月29日 アレッポ発】

アレッポ東部での戦闘が再発して以来、この地域の少なくとも4万人が避難を余儀なくされており、その半数は子どもたちです。アレッポで活動するユニセフは、パートナーとともに、すべての子どもたちに命を守る支援を届けています。

ユニセフの支援

アレッポで活動するユニセフのチームは、ジブリーン避難所に到着するすべての子どもたちに、命を守る支援を届けています。ユニセフは緊急支援として、1日に600万リットル以上にのぼる給水支援、水タンクやトイレの設置、重要な衛生用品の配布などを行っています。

また、プライマリ・ケアや予防接種、戸別訪問による子どもの栄養チェック、栄養不良治療などの保健ケアも届けています。紛争の影響を受けている何百万人もの子どもたちが、心理社会的ケアを通じて、苦痛や悩みに対処するサポートを受け、再び子どもでいられる機会を得ています。

ユニセフは、冬の気候に対処するのに必要な冬用衣類や毛布を避難している家族に提供するとともに、子どもたちが教育を続けられるよう、避難所の敷地内にプレハブ教室を設置し、補習授業をおこなっています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

安全な場所を求めて避難する子どもたち・いかなる時も・子どもの保護を。

佐賀県ユニセフはシリアの子どもたちを守るための緊急募金に取り組んでいます。
みなさまのご支援をよろしくお願いします。

長谷部誠選手 日本ユニセフ協会大使に 就任

【2016年12月24日 東京発】

プロサッカー選手として世界の舞台で活躍されている長谷部誠選手が、日本ユニセフ協会大使に就任されました。

飛行機の機内で手に取られたユニセフの封筒をきっかけに、長谷部選手がユニセフ・マンスリーサポート・プログラムを通じて毎月定額のユニセフ募金を始められたのは、約10年前の2007年。



© 日本ユニセフ協会/2014/Mariko. Miura
スマトラ沖地震・津波から10年 長谷部誠選手、バンダ・アチュ訪問 被災地の子どもたちと交流
子どもたちとのミニ・サッカーに参加した長谷部選手。（2014年12月23日 ランピネウン第24小学校で）



©日本ユニセフ協会/2016
日本ユニセフ協会大使に就任した長谷部選手。サッカー教室に参加してくれた子どもたちにも、「立会人」として任命式に参加していただきました。

子どもたちの歓声でコートに迎えられた長谷部選手は、約1時間にわたり、ミニ・ゲームを中心にしたサッカーで子どもたちと交流。子どもたちは寒さを吹き飛ばすほどの元気な笑顔と真剣な眼差しで、長谷部選手とボールを追いかけっていました。

大使としての今後の抱負

ユニセフは、幅広く世界の子どもたちが直面する問題を訴え、また、ご支援を呼びかけるため、社会に大きな影響力を持つ芸能・文化・スポーツなどの世界で活躍されている方々の力をお借りするようになった最初の国連機関で、その歴史は、世界的なコメディアン、ダニー・ケイさんを親善大使に任命した1954年に遡ります。日本ユニセフ協会大使としての任命は、歌手のアグネス・チャン氏（1998年就任・2016年3月よりユニセフ・アジア親善大使）、医師の日野原重明氏（2007年就任）に続き、長谷部選手が3人目です。

現在、ユニセフ親善大使として活動してくださっている方々は、全世界で約380名・団体。サッカー界でも、国際大使のリオネル・メッシ選手（FCバルセロナ所属）やデイビッド・ベッカム氏（元イングランド代表）の他、現在レアル・マドリードで活躍中のセルヒオ・ラモス選手（スペイン）やバイエル・レバークーゼンで活躍中のハビエル・エルナンデス選手（メキシコ）、かつてイタリア代表チームで活躍されたフランチェスコ・トッティ氏（イタリア）ら多くの現役選手や元選手も、全くの無報酬で、ユニセフの活動に協力してくださっています。

世界のユニセフ親善大使の一員となられた長谷部選手は、今後の活動への抱負を、次のように語られました。

「サッカー界から、すでに多くの方々がユニセフ親善大使として、世界の子どもたちのために活躍されています。僕も、今からその一員として、微力ながら、アフリカなど特に厳しい状況に置かれている子どもたちのために、皆さまとともに力を尽くしていきたいと思います」

※Instagramに公式アカウントが開設されました。
アカウント名「@makoto_hasebe_official」



©日本ユニセフ協会/2016/tatsuo. hirose
長谷部誠選手「あさひ幼稚園」訪問 （2016年6月8日 宮城県南三陸町）



- 9月17日（土） レッドトルネード（トヨタ紡織九州ハンドボール部）募金活動（神埼市中央公園体育館）
- 9月21日（水） ユニセフ出前授業 ドリームパーク「水から世界をかんがえよう」（神埼市脊振小学校）

- 10月9日（日） 2016さが国際フェスタ The Asian Day（佐賀商工ビル 佐賀県国際交流プラザ）
世界のカレーまつり 講演会「すべての子どもに教育を～インド・アッサム州の事例～」



午前の部は『世界カレーまつり～スリカンカ・タイ・バングラデシュの留学生とカレーをつくろう～』調理法やスパイスの種類の豊富さに異文化を感じながら楽しいクッキングタイムとなりました。

午後の部は『すべての子どもに教育を「インド女子教育視察報告会～アッサム州の事例～」2016年3月にインド・アッサム州におけるユニセフの支援現場を視

察した中野寛子さん（日本ユニセフ協会）に、子どもたちの様子や支援の様子を報告していただきました。

- 10月9日（日）～10月14日（金） パネル展（佐賀商工ビル1F）
「ポリオのない世界へ」「ポリオを克服したインドの記録」

- 「世界手洗いの日：手をあらおう・手をつなごう」 10月16日（日）（アバンセ：ばぶばぶフェスタ会場にて）
10月19日（水）（佐賀市：中央保育園）



16日は、佐賀県と佐賀新聞社が主催する「ばぶばぶフェスタ」会場で、水のろ過実験・ウガンダなどで使われているティッピータップ体験・紙芝居・手洗いダンス・洗い残しチェック等を行いました。子どもたちが興味津々で参加してくれました。19日は、社会福祉法人くすのき「中央保育園」におじゃまして、3歳児～5歳児のかわいい子どもたちと一緒に楽しく手洗いの勉強をしました。活動の後に「風邪をひくと保育園をお休みしなければならないので、ちゃんと手を洗います。」とのコメントもありました。両日とも佐賀女子高等学校の生徒さんの積極的なご協力がありました。

- 10月27日（木）～28日（金） 日本ユニセフ協会学校事業部 ユニセフキャラバン 佐賀県訪問
佐賀県庁 佐賀市立大和中学校 佐賀市立兵庫小学校

- 10月30日（日） ユニセフチャリティーバザー（佐賀玉屋南館アーケード）
テーマ「すべての子どもに教育の権利を ～インド女子教育支援～」

会場には県内外からお寄せいただいたたくさんのバザー品が並び、佐賀県立佐賀商業高等学校のみなさん、立正校成会佐賀教会のみなさん等、多くの方々のご協力をいただき、バザー品の販売や街頭募金活動を行いました。

バザーの売上は148,890円、街頭募金は17,016円、合計165,906円にもなり、全額「インド女子教育支援」募金とさせていただきます。

企業団体としてバザー品のご提供をいただいたリコージャパン佐賀支社様・リコーテクノシステムズ佐賀営業部様・佐賀玉屋様・国際ソロブチミスト佐賀西部様、また、東京・大阪・兵庫・岡山・福岡など県外から宅急便でバザー品をお送りくださった方、県内でご支援くださった多くの皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、募金箱にご協力くださった皆様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、誠にありがとうございました。



- 11月5日（土） レッドトルネード（トヨタ紡織九州ハンドボール部）募金活動（神埼市中央公園体育館）
- 11月28日（月） ユニセフ出前教室「リミさんといっしょにバングラデシュに行こう」（柳川市立矢ヶ部小学校）
- 12月15日（木） ユニセフ講座 国際ソロブチミスト佐賀西部卓話「女性と女兒のために」（武雄センチュリーホテル）

活動詳細

栄養不良から小さな命を守ろう



第38回ユニセフ ハンド・イン・ハンド

11月と12月の2ヶ月間にわたって実施した『第38回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン～栄養不良から小さな命を守ろう～』では、個人・学校・団体・企業等々、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただきました。

皆様かお預かりした募金総額は、2,302,016円にもなりました。ここに感謝を込めてご報告申し上げます。誠にありがとうございます。

街頭募金活動は11日と18日の2日間、8会場で実施しました。また、25日には浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟ウインタースクールの皆様が募金活動をしました。

3日間ともお天気に恵まれて風もなく暖かいハンド日和でした。昨年から参加している高等学校の生徒さんたちが今年も参加され、また、今年新たにユニセフキャラバンで訪問した学校の子どもたちの参加もありました。どの会場にも小さい子どもからご高齢の方まで、元気な声が響きました。

12月11日(日) ゆめタウン佐賀店 イオンモール佐賀店 ホームワイド佐賀大和店 イオンスーパーセンター佐賀店



ゆめタウン佐賀



イオンモール佐賀大和/ホームワイド佐賀大和



イオンスーパーセンター佐賀



Aコープララベル鹿島店



イオン上峰ショッピングセンター



佐賀玉屋



コープさが新栄店

小さな子どもからご高齢の方まで幅広い年代のボランティアさんは、総勢248名にものぼりました。ボランティアの皆様は「ユニセフ募金にご協力をお願いします!」「2円で一年分のビタミンA一人分になります!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、まことにありがとうございました。

○ボランティア協力をしてくださった皆様

佐賀商業高等学校様 材木町子ども会様 田中グループ様 高志館高等学校様 致遠館高等学校様 大和中学校様
ボーイスカウト佐賀第5団様 兵庫小学校様 佐賀清和高等学校様 三養基高等学校様 神埼清明高等学校様
平井グループ様 矢ヶ部小学校様 三橋中学校様 柳川市教育委員会様 ボーイスカウト鹿島第一団様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 (※個人の方のお名前は控えさせていただきます。)

○会場をご提供くださった企業様

イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 佐賀玉屋様 コープさが新栄店様 ゆめタウン佐賀店様
イオン上峰ショッピングセンター様 イオンスーパーセンター佐賀店様 Aコープララベル鹿島店様

その「書き損じはがき」捨てないで!

例えば、書き損じはがき1枚で、子どもたちの免疫力を高め感染症にかかりにくくする“ビタミンA”(1年間分)を22人の子どもに投与できます。
ユニセフを支援する会「母子草」では、書き損じはがきを集めて募金にしています。
年賀はがき等の書損じがありましたらどうぞご協力ください。(お問合せ: 0952-28-2077まで)





ご支援 ありがとうございます

コープさが生活協同組合様 トヨタ紡織九州レッドトルネード様 田口電気工業様 最所法律事務所様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 佐賀市役所川副支所民生児童委員協議会様 ぎょうぎ屋様
佐賀市文化会館様 TSUTAYA鍋島店様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 川崎自工様
グランデはがくれ様 旅館あけぼの様 団野法律事務所様 国府団地花みずき通り様 佐賀シール工業様
佐賀ギター音楽院様 ライブハウスガイルス様 みねまつ歯科様 弘堂国際学園様 アルタ開成店様
アルタ高木瀬店様 れすとらん志乃県庁店様 ファミリーマート尼寺店様 山小屋ラーメン南佐賀店様
手打ちうどんそば夢心様 菖蒲ご膳様 H&M Fido EXCEL様 H&M EXCE W.E.N.S様 恵比須鍼灸医院様
ホテルニューオータニ佐賀様 New・モア様 多布施クリニック様 ふくしま薬局通小路様 母子草様
西国御領風羅坊様 東洋館様 ドゥース様 サンシャレー様 三瀬そば様 いっせい麺処様 (株)北島様
えんぴつ館様 村岡屋卸本町店様 村岡屋駅南店様 SAGA空港一番館様 ANAFESTA様 矢山クリニック様
イエローハットモンテ太陽本庄店様 イエローハットモンテ太陽医大通り店様 栗原内科消化器科医院様
レストランカンフォーラ様 佐賀リハビリテーション病院様 佐賀リハビリテーション病院リハビリ部様
北明小学校様

すぎの子文庫様 道海島小学校様 佐賀銀行総務厚生グループ様 佐賀玉屋物流係様 副島病院様
みねまつ歯科医院様 田中電子工業様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 国際ソロプチミスト佐賀西部様
ヘルスランチあららぎ様 佐賀県民協働課様 門司歯科医院様 カイセイ薬局荒江店様
佐賀玉屋総務課様 さが市民活動プラザ様 佐賀大学スーパーネット様 第一生命佐賀支社様
富安造園様 内堀忠次商店様 三橋中学校様 矢ヶ部小学校様 佐賀大学産学官連携推進機構様
千代田中部小学校様 第一生命労働組合佐賀営業職支部様 高齢者・障害・求職雇用支援機構様
西村会計事務所様 共栄銀行秘書グループ様 循誘公民館様 JSA会中核会佐賀支部様
佐賀県高等学校家庭クラブ連盟様

致遠館高等学校様 佐賀清和高等学校様 高志館高等学校様 佐賀商業高等学校様 三養基高等学校様
神埼清明高等学校様 大和中学校様 兵庫小学校様 ボーイスカウト佐賀第5団様 柳川市教育委員会様
材木町子ども会様 ボーイスカウト鹿島第一団様

ゆめタウン佐賀店様 イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 コープさが新栄店様
イオンスーパーセンター佐賀店様 Aコープララベル様 イオン上峰ショッピングセンター様
(順不同：2016年9月16日～2017年1月27日)

※いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



の仲間たち!

浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟のみなさん ―佐賀市―



2016年ウィンタースクールに参加した皆さん

各寺院が開設している子ども会活動におけるリーダー育成を目的とし、小学中学年から中学3年生までの子どもが参加するウィンタースクール。ユニセフ ハンド・イン・ハンドの募金活動は、この一環として2004年より取り組み始めました。

事前にユニセフの学習資料で世界の子どもの状況を知り、募金活動の意図を学んだうえで募金活動に臨んでいます。参加する子どもたちには、世界の子どものたちが直面している様々な問題に共感し、生きることにより切実な人があるんだということを知ってほしいと思っています。それによって参加する子どもたちに主体性が芽生えるからです。

昨年（2016年）は、12月25日に、佐賀駅前SEIYUさん裏と佐賀玉屋さん前の2か所で募金活動を行いました。参加した子どもたちからは、「学生さんや若い人が積極的に募金をしてくださることが多く、嬉しかった。」「ホリデーシーズンで賑わう街中に身を置くことで、自分たちが恵まれている環境にいるのだと実感した。」といった声が上がっていました。募金を入れていただいた際に、嬉しさのあまり募金箱の中を覗き込み、中身を確認する少女の姿も印象的でした。

私たちは、一人では生きていくことができません。色々なものや周りの人々に感謝をしながら生きていくのです。そういった浄土真宗の教えにも重なる学びを、募金活動を通して子どもたちが体感してくれたら、と思っています。

浄土真宗本願寺派の少年教化活動を行っている佐賀県内の寺院を取りまとめているのが、佐賀教区少年連盟です。

「子どもの声が聞こえるお寺に」をスローガンに、子どもが主体的に参加できる少年教化活動を目指しています。

普段は各寺院で、子どもを対象とした「日曜学校・子ども会」を週末に開催していますが、年に数回、佐賀教区内の寺院の子どもたちが集まり活動を行います。そのひとつがウィンタースクールです。



佐賀玉屋前での募金活動